

「人」は人材でなく人財と考えています。

理事長 西河洋一

「人、物、金、時間」、私はその中で「人」が一番大切な経営資源

景気回復が叫ばれる中、4月1日には多くの会社に新入社員が入社しました。「企業は人なり」と言います。経営資源は、「人、物、金、時間」とありますが、私はその中で「人」が一番大切な資源であると思います。企業にとって「人」は人材でなく、人財であると考えています。

困った時、ビジネスモデルを徹底的に考え直し収益が上がるモデルへと改善

人は物や、お金、そして時間を作り出す事が可能です。従って会社が不振に陥った時、立て直の為にリストラで人減らしをするのは愚策で「むしろ困った時こそビジネスモデルを経営者が徹底的に考え直し収益が上がるモデルへと改善し、人員を増やすことを考えるべきである」というのが私の持論です。苦しい時こそ、会社のために逃げ出さず協力してくれる様な社員がいれば、絶対に会社が潰れる様なことはありません。

入社後に研修や実務を通して能力を大きく伸ばし、愛社精神が強い

また、社員の採用にあたっては、優秀な人を集めたがる傾向がありますが、長く働いてくれないことが多いのが実情です。専門性があり優秀と思えば高い給与でヘッドハンティングしても、それよりも高い給与を提示されれば、直ぐにでも去ってしまいます。むしろ平均値レベルの人の方が、入社後に研修や実務を通して、能力を大きく伸ばしています。そういう人は愛社精神が強く、会社を裏切るような事は絶対せず、信用できる大切な人財です。

外国人の研修生、待遇面でも差別することなく日本人と同じにしている

建築業界は大工不足に喘いでいますが、外国人の研修生を採用し、人手不足を解消しています。研修生は一定期間の教育・研修を経て戸建住宅の建築が出来るようになります。待遇面でも差別することなく日本人と同じにしています。研修期間が終わり国に戻る時、「有難うございました、また日本に来たいです」と言われ、彼らを受け入れて良かったとつくづく思います。「稼いだお金で国に帰ったら、是非大学を卒業して、エンジニアとしてまた日本に来てください」と話しますと、「必ず日本に来ますから、その時お願いします」と言って去っていきました。

以上